



支援企業紹介

岩手県奥州市水沢区

有限会社
ベルモデル



30年ほど前から独自のNCデータ作成のプログラミングシステム開発を行い、金型加工の生産効率を格段にアップさせるなど、革新的な取り組みが同社の特長

鑄造用金型、木型製作という業務の枠を超え、デザイン試作から製品化までトータルでものづくりをとらえる奥州市の有限会社ベルモデル。技術や品質向上への惜しみない努力により、県内外の企業から信頼される同社の取り組みを紹介します。

鑄造用の木型と金型を製作 大手メーカーとの取引も獲得

奥州市に工場を構え、鑄造用の金型、木型製作および、鑄造品製造を行う有限会社ベルモデル。品質の高さや先進の技術を追求め、時代やクライアントのニーズに合った製品づくりで、大手メーカー等からの発注も多い。半導体・液晶パネル・太陽光パネル等の製造ラインの設備機器部品の製作や、高級オーディオ機器の開発に参画するなど活躍の場は広い。

型製作のおよそ7割は、アルミや鉄を機械加工した金型が占めている。CADやCAMなどパソコンで作成されたデータを高速マシニングセンターに送り、「主型」や「中子型」と呼ばれる鑄造用の型を製作。一見するとパソコンを使った、いたって現代的な作業にも見えるが、工場や現場を熟知していないとソフトを扱うことはできないという。「どの刃物でどう削っていくか、職人レベルの知識や経験がデータ作成にも必要になるんです」と、

菊池工場長は語る。

昭和16年の創業当初から行っている木型の製作は、木工機械と手作業によって行われるため、熟練職人の腕と勘が冴える。木型は安価で早い納期にも対応できることなどから、試作品用などの小ロット製品に欠かせない業務となっている。

こんな会社になりたいという夢を描き、新しい技術にも果敢に挑戦！

同社では、およそ30年前から鈴木社長を中心に、工作機械におけるコンピュータを使ったNC (numerical control「数値制御」) データ作成のプログラミングシステムの開発に取り組んできた。一般にパソコンが普及するよりも前のことで、価格の高さなどから一般企業でも導入するところは少ない時代だった。このシステムの導入で業務の効率化と精度の向上にいち早く取り組んだことにより、受注増の結果をもたらした。技術力の追求と革新への信念は、現在にいたるまで同社の根

Power of business human in Iwate

昔ながらの職人技術と、新しい技術への
チャレンジ精神が、ものづくりの進化を生む

今月の
表紙

奥州市水沢区、有限会社ベルモデルの社員のみなさん。木型と金型製作のスペシャリストたちは、長年培った経験や、技術力向上への探究心、そして新しいアイデアで日本のものづくりを支えている。

幹を支えている。

創業時は木型製作を主に手がけ、いわゆる「型屋」として事業を行っていた同社。「型はひとつ作ったら終わり。だから、自社でも量産品の製造を手がけていきたい」という長年の思いを実現し、現在は半導体関連の設備機器部品などの製造も取り扱っている。音響系の大手メーカーから南部鉄の铸造台座の開発を依頼され、4年あまりの製作期間をかけた高級オーディオ機器が発売されたのは平成21年のこと。「細かく複雑な形状のデザインオーダーを目にして、不可能だと思った」と蒔田金型課長は言う。そこから試行錯誤を重ね、地元の铸造所と協力しながら開発にこぎつけた経緯を振り返り、「こんな企業になりたい、という思いや夢に向かって進んで来たから、今のかたちになっているんです」と鈴木社長は笑顔で語る。

ものづくりの技術革新を後押しした、産業振興センターの支援

30年ほど前から岩手県工業試験場（現在の岩手県工業技術センター）に通い、ソフト開発に関する相談などを行ってきた経緯から、いわて産業振興センターとのつながりも深めてきた同社。平成21年度に県が公募した「地域ものづくり企業技術高度化支援事業



有限会社ベルモデル

【代表取締役】鈴木照美

【所在地】奥州市水沢区羽田町
字谷木37-1

【電話】0197-28-1101（代）

【FAX】0197-26-4529

代表取締役 鈴木 照美

1952年岩手県衣川村（現奥州市衣川区）生まれ。水沢工業高校卒業後、東京都内の企業でデザイン・インテリア業務を経験。80年に帰郷し、有限会社鈴木木型（現・有限会社ベルモデル）にてNCデータ作成のプログラミングシステム開発などを推進。94年代表取締役就任。

費補助金」に申請を行う際には「相談事業」を活用し、センターの担当者と打合せを重ね、「本当に親身になってくれた」と鈴木社長は振り返る。

高度化支援事業により同社では、最新鋭の機器を導入した。それは端から見れば、「型屋」として創業した同社のイメージを覆しかねない、「型を無くして製品を作る」という機器である。しかし、枠にとらわれず、常に革新を追い求める同社にとっては、効率化を図るとともに、事業の幅が広がるきっかけとなっている。

昔ながらの職人による技術と、新しいアイデアや機器の導入による技術を融合させ、ものづくりの新しい一步を踏み出そうとしている有限会社ベルモデルの、次なる挑戦にも期待したい。

< P.3写真 >

1	4	5
2	3	6

1. 創業当初から続く铸造用木型の製作現場。試作や小ロット用に使われ、安価で短納期なのが木型の利点
2. 職人の技術を要する、木型の手作業工程
3. 金型加工の機械。切削油をかけながら、金属を削っていく
4. CADやCAMを使った設計作業。金型工作機械のデータを制御するには、現場の知識も不可欠
5. 製造ディレクションを手掛けた高級アンプは、ハイエンド音響機器の専門誌でも特集が組まれた
6. アルミ铸造用グラビティー金型の工作機械加工

